

平成27年度「こころのケア」シンポジウムの開催

兵庫県こころのケアセンターの日頃の研究成果の発表と、「脳科学から見た児童虐待」についての講演会を内容とした「こころのケア」シンポジウムを開催いたしました。

- 1 日時：平成27年11月19日（木） 13：30～16：30
- 2 場所：兵庫県こころのケアセンター大研修室
- 3 参加者数：自治体職員や教育・保健・福祉関係業務従事者など約230人
ご来賓として3名の県議会議員の方にもご出席いただきました。
- 4 内容

開会にあたり、当センター加藤寛センター長が、シンポジウム開催の主旨、当センターの地域支援等の活動実績についての紹介を含め、あいさつを行いました。

その後、当センター亀岡智美副センター長兼研究部長が「子どものトラウマケア～根拠に基づいた治療についての研究～」について報告を行いました。この報告で「国際的にさまざまなPTSDの子どもの治療ガイドラインがあり、これらの全てで第一選択治療として推奨されているのがトラウマフォーカスト認知行動療法（TF-CBT）である。当センターではTF-CBTの第一人者であるアメリカ合衆国の研究者の指導を直接受けると共に、この研究者を講師として招聘し当センターが主催した研修も行っている。また、東京の被害者支援都民センター等の関係機関と共同して、精度の高い効果検証の研究を行っているところである。」との説明を行いました。

次に、福井大学子どものこころの発達研究センター友田明美教授に、「脳科学から見た児童虐待」について講演を行っていただきました。この講演では、超少子化社会を迎えるにあたって、子どもたちが健全な生活をおくることができる社会づくりの大切さ及びそのための児童虐待対策の必要性に触れられた後、友田教授は「児童期の虐待経験に伴う脳の器質的・機能的な変化と発達の障害との関連について脳MRI画像を使って研究しており、この研究で激しい体罰による前頭前野の萎縮や暴言虐待による聴覚野の拡大等が明らかになってきた。」と述べられ、この現象について実際の脳MRI画像を映しながら詳しく説明いただきました。また、友田教授の研究室では、このような脳の発達についての分子・細胞レベルでの研究に加え、不登校・引きこもり・発達障害の治療について臨床に根ざした治療・支援のための研究等が展開されているとのことでした。

講演後の質疑応答を含め「子どものこころのケア」について、最後まで活発な意見交換が行われ、実りの多いシンポジウムとなりました。